



### 8月は熱中症に注意

今年の夏(8月~9月)の気温は、全国的に平均より高く、暑い夏になりそうです。7月下旬から8月初旬は一年を通して最も気温が高く、猛暑日(35℃以上)になる日もあります。救急車による熱中症緊急搬送は猛暑日になると急激に増加します。そして、その救急搬送患者の5割強が65歳以上の高齢者で占めています。屋内での熱中症のニュースが流されるとき、「エアコンがあるのに利用されていませんでした」という注釈が付くのが常です。扇風機をつけても吹く風は熱風になり、本来なら風により汗が蒸発して体温が下がりますが、湿った熱風では体の熱を外部に逃がすことができません。我慢が美德とされる場面もありますが、熱中症に関しては症状が出た場合は我慢せずに救急車を呼んでください。体感だけに頼るのではなく、熱中症の注意度が表示された温湿度計をお勧めします。

## 熱中症



### 高齢者とコミュニケーション

コミュニケーション(communication)の意味を辞書で調べると、社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介として行われる。とあります。

高齢者は視覚や聴覚、言語能力の低下によって情報を伝達しにくくなったり、認知症によって意思疎通が困難になったりします。ご家族ご友人あるいは、介護者との関係を良好に保つためにもコミュニケーションを上手に取って行きたいものです。

### 言語聴覚士(リハビリ専門職)

言葉によるコミュニケーションが困難となってしまう人たちの状況を改善・軽減するためのリハビリ専門職が言語聴覚士です。また、言語以外の認知機能のリハビリや、飲み込みなどのリハビリも言語聴覚士がおこないます。

リハビリ専門職としては、この他に理学療法士、作業療法士が良く知られています。言語聴覚士は1997年に国家資格として制定された、比較的新しい専門職です。1999年3月に第1回国家試験が実施され、2002年3月に第4万人が有資格者となりました。2003年3月に第1回国家試験が実施されました。1966年に第1回国家試験が実施された理学療法士、作業療法士と比べると半数以下となっており、デイサービスの機能訓練指導員として従事していることが多く、リハビリ指導を受けるには病院系の通所ケア(通所リハビリテーション)に通うことが必要です。お下りに言語聴覚士の訓練・支援内容をあげておきます。

### 言語聴覚士の行う訓練・支援

① 医師又は歯科医師の指示の下に、以下の訓練・支援を行います

② 成人言語・認知の訓練

③ 発声・発語の訓練

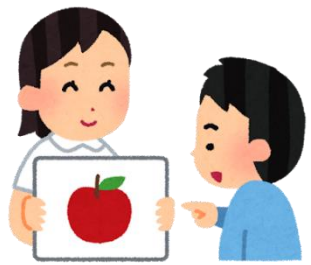
④ 小児言語・認知の訓練

⑤ 聴覚の支援

⑥ 日常生活で大切な事



ブローイング訓練



### 日常生活で大切な事

当社は福祉用具を中心にサービスを提供させて頂いていますが、良いサービスを提供するには良いコミュニケーションが必要だと日々感じています。今月号では、日常生活改善のヒントとして言語聴覚士というコミュニケーション領域のリハビリ専門職の紹介をさせて頂きました。

